お客さんから当事者へ：公共的な空間をつくる私たち

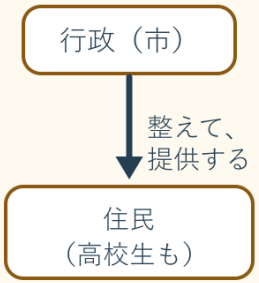
社会に参画する自立した主体とは何か。公共的な空間は、だれがつくるのか

① お客さんの見方：使うだけ



高校生の関わり方

- ベンチや花だんを使う
- 不満があっても、言うだけ
- 決めるのは、ほかのだれか



② 当事者の見方：一緒につくる

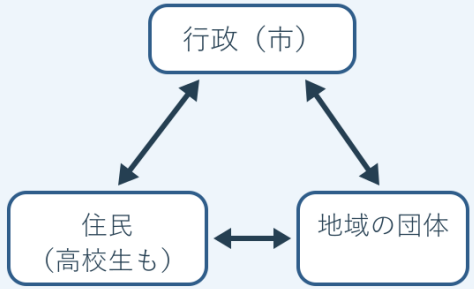


高校生の関わり方

ア 話し合いで意見を出す

イ 花の植え替えを手伝う

ウ 使い方のきまりを一緒に決める



社会に参画する自立した主体とは（学習指導要領「公共」A(1)イ(ア)から）

孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、
他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在

①と②は人を分ける見方ではない。同じ人が、場面によってどちらの関わり方もする。

※ 架空の町の駅前広場。人物は記号で表した。